特集

増え始めたイノシシ被害 自分たちの土地は自分たちで守る

農作物や農地へのイノシシ被害が年々増えている衣川南股の噌味地区。地元の猟友会らが捕獲活動を行うものの、捕獲が追い付かず、生息数が増加しています。イノシシの生息域が広がり、被害が市内全域に拡大する心配があることから、県と市は、同地区をイノシシ被害防止対策のモデル地区に設定しました。今回は、イノシシ被害防止対策として、地域住民、猟友会、行政が連携して取り組んでいる活動内容を紹介します。

■問い合わせ＝本庁農地林務課農村保全推進室（内線376）

イノシシに荒らされた畑（写真提供：胆沢猟友会衣川支部 相澤征雄さん）

生息域を広げるイノシシ

平成26年、衣川地域の農作物生産者から、イノシシによる農作物被害が初めて市に報告されました。報告を受け、地元猟友会などで構成する「奥州市鳥獣被害対策実施隊」による有害捕獲活動を行いましたが、その年は捕獲することができませんでした。27年、補助事業を活用してイノシシ捕獲用のくくりわなを整備し、3頭を捕獲しました。29年には捕獲数が7頭まで増加しますが、年々増え続ける生息数に捕獲が追い付かない状況となっています。これまでに、市全域でのイノシシ目撃情報もあり、被害の拡大が心配されています。

モデル地区に設定し、被害対策を強化

現在、179人の隊員で有害捕獲活動に取り組む実施隊ですが、約8割が60代以上の人たちです。若い隊員が少なく、5年後、10年後の捕獲活動の担い手不足が懸念されています。こうした中、県と市は、衣川南股の噌味地区を本年度モデル地区に選び、地域住民、実施隊、行政の連携による「地域主体によるイノシシ被害防止対策のモデル実証」を開始し、「有害捕獲サポーター事業」を実施しました。この事業では、わな猟・狩猟免許を持たない人でも捕獲活動に参加でき、有害捕獲サポーターとしてわなの見回りを行うなど、実施隊の補助をすることで自分の農地を守ります。また、実施隊員の負担軽減にもつながります。

イノシシによる農作物被害額　　単位：千円

	26年度	27年度	28年度	29年度
市全体	15	55	304	1,255
うち衣川地域	15（0）	55（3）	267（2）	1,255（7）
衣川の割合	100%	100%	88%	100%

※かっこ内数値は、イノシシの捕獲頭数

【それぞれの役割】

○地域住民…鳥獣を寄せ付けない環境の整備、わなの見回りや餌まきなど捕獲の補助活動、侵入防止柵の設置

○実施隊…捕獲活動

○行政…研修会などの開催、地域主体による被害防止対策の体制構築、侵入防止柵の設置補助

新たなカ「有害捕獲サポーター」

平成30年8月1日、県と市が主催する「地域主体によるイノシシ被害防止対策研修会」が南股地区センターで開催されました。参加者は、被害状況マップに基づき地区内を巡回し、現場を確認しました。イノシシを寄せ付けないための環境整備手法など、専門家から助言を受けました。

また、9月21日、市が主催する「有害捕獲サポーター安全講習会」が同センターで開催されました。県内の野生鳥獣による農作物被害状況、わなの仕組みなどを学びました。この講習会を受講することで実施隊の捕獲活動を補助できる「有害捕獲サポーター」として活動できます。

こうして、9月21日から10月31日までの間、11人のサポーターが加わり、箱わなによるイノシシの捕獲活動に取り組みました。

10月1日午後8時、設置した定点カメラが捉えたイノシシの群れ

有害捕獲サポーター安全講習会の様子

箱わなを設置し、餌でイノシシをおびき寄せる

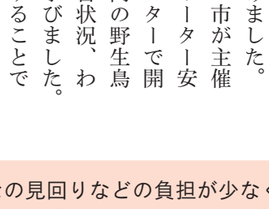
参加者のメリットなど

実施隊（猟友会など）	・わなの見回りなどの負担が少なくなり、捕獲要望に応えやすくなる
地域住民（有害捕獲サポーター）	・免許がなくても捕獲活動に参加でき、自分の土地を守ることにつながる ・サポーターの活動を通じ、狩猟について学ぶことができる

参加者に聞く

市鳥獣被害対策実施隊
（胆沢猟友会衣川支部）
相澤（あいざわ）　征雄（ゆきお） さん（73）

秋田県の山間部で育ち、子どもの頃からマタギに憧れていました。10年程前から猟友会でわなの仕掛けを専門に活動しています。5年前に自宅近くで初めてイノシシを見ましたが、現在この辺りには100頭を超えるイノシシが生息していると考えられます。イノシシの捕獲には、獣道を発見することが重要で、今回のサポーターからの情報提供がとても役に立っています。サポーターと連携して被害を食い止める活動をしていきたいです。



有害捕獲サポーター
高橋　セイ子 さん（74）

エゴマを主に野菜を栽培しています。3年前からイノシシの被害で困っていましたが、今では畑だけではなく、田んぼもイノシシの集団に荒らされました。捕獲することはかわいそうですが、自分たちの農地、生活を守るため、サポーターとして猟友会の皆さんと一緒に取り組んでいます。以前は自給自足で生活していましたが、今はイノシシが好むマメやトウモロコシなどの栽培を諦めています。以前の生活を取り戻すために頑張っていきたいです。